

競技注意事項

1. 規則について

本大会は2019年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により行う。

2. 練習場について

- (1) バックスタンド裏の練習場で練習を行うこと。それ以外の練習は他の選手、一般の方の迷惑にならないように十分に配慮すること。
- (2) 投擲練習は禁止する。練習は2次招集後に投擲審判員主任の指示のもとで行うこと。

3. 招集について

- (1) 一次招集は雨天走路内の競技者係にて、競技者本人がコール用紙のレーンナンバーに○を付けて行う。その際、ナンバーカードをつけたユニフォームを掲示し、スパイクピンの長さの確認を受けること。また腰ナンバーの確認も行うので事前に腰ナンバーを付けて招集を行うこと。
- (2) 各競技の1次招集時間は下記の通りである。

種目	開始時刻	完了時刻
トラック・リレー競技	競技開始30分前	競技開始20分前
跳躍競技(棒高跳以外)	競技開始60分前	競技開始50分前
男子棒高跳	競技開始90分前	競技開始80分前
女子棒高跳	競技開始60分前	競技開始50分前
投擲競技	競技開始50分前	競技開始40分前

※1次招集は室内練習場内の競技者係にて行う。ただし、男子棒高跳は現地にて一時招集を行う。

- (3) 招集は、原則として選手自身がユニフォーム・ゼッケン・スパイクの確認を受ける(1次招集に選手自身が来られない場合は、1次招集完了時刻までに重複出場届を提出し、代理人が『重複出場届の控え』を1次招集時に競技者係に提示する)。そして、コール用紙のレーンナンバーを丸で囲み、トラック競技は腰ゼッケンをもらうことで一次招集の完了とする。
- (4) リレーオーダー用紙は1次招集完了時刻1時間前までに競技者係へ提出すること。提出しなかった場合、そのチームを棄権とみなす。
※個人種目と同様、リレー種目は1次招集の際、4人そろってナンバーカードをつけたユニフォームをもって、競技者係に提示すること。
- (5) リレー競技の編成方法は、競技規則第170条10項に順ずる。
- (6) 現地招集は、トラックは10分前(但し5000m以上の種目の2組目以降は前の組が出発してから行う)、フィールドは30分前(但し男子棒高跳のみ60分前)とする。
- (7) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届は受付もしくは競技者係にて配布する。

4. 欠場について

- (1) 事前に欠場することが決まった者は、大会前日の17時00分までに関西学連事務所(06-6442-8771)へ事前欠場用紙に記入しFAXで送信すること。

- (2) 当日の欠場は原則として認めない。やむを得ず当日の欠場をする場合は、欠場者届用紙に必要事項を記入の上、第1次招集完了時刻までに大会本部の総務、競技者係の順に提出して承認を得ることで、欠場が認められる場合がある。
- (3) コール漏れ（現地招集を含む）は欠場とみなしその種目の出場を認めない。

5. 競技者の服装について

- (1) ナンバーカードは2019年度登録番号を用い、必ず学連配付の物を使用すること。
- (2) 競技者は、競技者係で配付される腰ナンバーカードを右腰に、3000mSC、5000m、10000mのトラック種目については両腰に明瞭につけること。尚、このナンバーカードは競技終了後直ちに回収する。途中棄権の場合も返却すること。
- (3) 5000m以上のトラック種目について、ナンバーカードは1次招集で配付した別ナンバーカードを使用し、必ず胸・背に安全ピンでしっかりとつけること。
- (4) スパイクのピンは9mm以下の全天候舗装用を使用すること。（但し、走高跳、やり投については12mmまで使用可）
- (5) リレー競技に限らず同一大学は同一のユニフォームを着用すること。セパレートユニフォームを使用する場合も、色・デザインは統一させておくこと。ただし、2015年4月1日からの規定変更に伴いユニフォームの変更を行っている大学は、申請を行えば変更前と変更後の複数のデザインのユニフォームを認める場合がある。

6. 競技運営について

- (1) 全てのトラック種目の走路順、フィールド種目の試技順は、プログラム記載の順で上から下へと行う。但し、混成競技・走高跳・棒高跳はこの限りではない。
- (2) トラック及びフィールド内での携帯電話・音楽再生機器・無線機などの持ち込み・使用を禁止する。
- (3) 競技場のトラック、フィールド内には競技者以外は立ち入らないこと。
- (4) 競技中の選手に対する助言は2019年度日本陸上競技連盟競技規則に従う。またフィールド競技に関しては現場の審判員がトラック競技の進行に注意しながら許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行ける。しかし審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・ヘッドコーチ等で協議し対処する。

7. トラック競技について

- (1) トラック競技の計時は電動計時（1/100秒）とする。但し、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（1/10秒）とする。
- (2) 5000m・10000mに関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で、残り一周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

10000m・・・男子 38分・女子 45分 5000m・・・男子 20分・女子 22分

8. 不正スタートについて

- (1) 今大会はフライング1発失格とする。
- (2) スタートのコールは英語にて行う。
- (3) フライングの判定は目視にて判断する。
- (4) 不正スタートに関する参考資料としてビデオ撮影を行う場合がある。

9. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は以下の通りとする。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・ヘッドコーチの協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

	種目	ピット	試技開始	備考
男子	走高跳	Aピット	1m90cm	2m10cmまで5cm刻み、以降3cm刻み
		Bピット	1m75cm	
	棒高跳	Aピット	4m40cm	4m80cmまで20cm刻み、以降10cm刻み
		Bピット	3m60cm	
女子	走高跳	Aピット	1m50cm	1m65cmまで5cm刻み、169cm、172cm以降3cm刻み
		Bピット	1m35cm	
	棒高跳	Aピット	2m60cm	3m60cmまで20cm刻み、以降10cm刻み

	種目	ピット	試技開始	備考
十種	走高跳	Aピット	1m70cm	1m85cmまで5cm刻み、以降3cm刻み
		Bピット	1m45cm	
十種	棒高跳	Aピット	3m40cm	4m00cmまで20cm刻み、以降10cm刻み
		Bピット	2m20cm	
七種	走高跳	Aピット	1m40cm	1m55cmまで5cm刻み、以降3cm刻み
		Bピット	1m25cm	

- (2) 三段跳の踏切板の位置は、男子はAピット13m・Bピット12mとし、女子は一次招集で9mか11mを選ぶ。
- (3) 投擲種目の公式練習は、2投までとする。ただしハンマー投は1投とする。ただし、審判員の判断により回数を変更する場合がある。
- (4) 棒高跳の公式練習はゴムバーを使用する。

10. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用する。但し棒高跳用ポールは私物使用を認める。また、当日以外の受付は原則として認めない。
- やりについては100mゴール側の用器具庫前で行う本部の検定を受けて合格したものに限り使用を認める。やりの検定受付時間は競技開始90分前とし60分前に締め切る。
- (2) 主催者で用意した備品の紛失、破損については当該選手の所属大学が弁償すること。
- (3) 競技場備品の紛失、破損については別途仲介料を徴収する場合がある。

11. 混成競技について

- (1) 十種競技申し合わせ事項」および「七種競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

12. 開閉会式・表彰について

- (1) 開閉会式は、全参加大学が開式10分前に部旗を持った旗手を先頭に整列すること。芝生に入ってはいけない。
- (2) 各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点 以下同様4～8位5～1点とする。

1.3. 表彰について

- (1) 各種目3位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技結果発表後、大会本部の表彰係まで来ること。
- (2) 表彰の服装は上：所属大学のチームユニフォーム、下：チームジャージと指定する。

1.4. 抗議の申し立てについて（競技規則等146条）

- (1) 競技進行に起きた行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの監督から結果が正式に発表（アナウンス）されてから決勝の場合は30分以内、次のラウンドが行われる競技では15分以内に、口頭で審判長に申し出なくてはならない。

1.5. 競技場使用上の注意

- (1) 開門は両日ともスタンド・北西門において8時30分に行う。
- (2) 閉門時間は1日目競技終了30分後、2日目は閉会式終了30分後とする。
- (3) トラック内での練習は1日目、2日目共に9時15分までとする。ただし大会準備の妨げにならないよう気をつけること。
- (4) 競技場内での喫煙は一切認めない。これらの行為が見られた場合、その者に対し厳重な処罰を与える。
- (5) 芝生への進入は一切禁止する。
- (6) 屋内において練習場以外では必ずスパイクシューズを脱ぐこと。
- (7) メインスタンドでの集団応援は一部を除き終日禁止とする。当日何らかの方法で場所を区切るの注意すること。

1.6. その他

- (1) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2019年度(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (2) 学生競技者としてのマナーを逸脱した行為が見受けられた場合は、その学生の所属する大学の以後の競技を中止させ、処罰を与える。
- (3) 競技者の本部前の通行は禁止する。
- (4) 競技終了後、各大学は周囲の清掃を行う。分別されたゴミであれば受付にて受け取る。それ以外は各自で持ち帰ること。
- (5) 参加校は学生審判および学生補助員の派遣要請に基づき、定められた数の学生審判および学生補助員を派遣すること。学生審判の服装は正装とし、公認審判員カードを着用して審判にあたること。受付にて配付する名札と腕章も着用すること。学生補助員はクラブ指定のジャージの着用のみを認める。派遣しなかった大学は以降の出場を認めない。
- (6) 雨天練習場の更衣室は利用していいが、荷物は各自で管理すること。紛失した場合も弊連盟は一切責任を負わない。
- (7) メインスタンドでの、のぼり・横断幕・テント等の設置は禁止する。
- (8) 競技場に入場する際は全天候走路の保護のため、底の固い靴やヒールのあるものを履いて入場することを禁止する。該当する者について、発見次第、競技場の立ち入りを禁止する。学生審判員・学生補助員についても同様であり、十

分に注意すること。

- (9) 役員・審判・学生審判員・学生補助員及び選手以外のグラウンドへの進入は一切禁止する。また、応援はスタンドからのみとする。
- (10) 不明な点は、本部まで問い合わせること。

関西学生陸上競技連盟